

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191200054		
法人名	株式会社 GAKUSAN		
事業所名	グループホーム のりこハウス		
所在地	恵庭市駒場町6丁目1番1号		
自己評価作成日	令和3年2月22日	評価結果市町村受理日	令和3年3月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=0191200054-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和3年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームのりこハウスは1ユニットで9名の方が入居できる認知症対応型の施設です。平成22年3月に開設してから11年が経過しようとしています。小規模多機能施設が併設されており『医療・福祉・介護の連携を図り、人々の心を支えます。人の辛さを思いやり、慈愛の気持ちをもって地域に役立つことを目指します』を共同理念とし、実現すべく実践しております。高齢者が住み慣れた地で、その心身状況に応じて最後まで同じスタッフに援助を受けることで暮らせる施設づくりを微力ながら実践し、ご本人、ご家族の意向に沿ってお看取りを行う体制も整っております。地域の方々のご協力のもと、11年という時間が経過し施設として地域に貢献できるように活動をすすめていきたいと考え、平成30年6月より認知症カフェをオープンしました。認知症カフェのスタッフも地域のボランティアの方が協力して頂けてスタートすることができました。地域の集いの場として地域に根差し、支えあいながら活動することにより、入居されている方が施設で暮らしていても個々の暮らしがあり、楽しみもある暮らしとなるように活動を実践しております。昨年からの新型コロナウイルスが終息しない状況ではありますが、感染対策等予防を徹底し、感染症と共生した暮らしの形を構築できるように日々活動しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームのりこハウス」は恵庭駅より車で5分程に位置し、バス停も近く駐車場も広いため訪問しやすく、商店にも徒歩で行けるため利便性が高い。2階建ての1階は同法人の小規模多機能住宅で、2階が9人1ユニットの当事業所である。明るく清潔感のある共有部分は憩いの場として自由に過ごせるスペースがあり、観葉植物を多く飾り、マッサージチェアや卓球台も設置している。歩行訓練に適した共有空間では、体力低下防止のため体操や各種ゲームなども楽しむことができる。管理者は外部評価での課題にも真摯に取り組み、向上心を持って運営に取り組んでいる。また、日頃から職員の意見や提案に耳を傾けて意見交換をするなど、より良い職場環境作りを行っているため職員の定着率も高い。終末期における具体的な支援内容も明確に示しながら可能な限り事業所での看取りができるよう、法人の協力も得ながら取り組んでおり、利用者や家族の安心感につなげている。感染症の流行で外出の機会が少なくなっているが、全員がマスクをするなど感染症予防対策をしてドライブを楽しみ、利用者の自宅を見学したり、入居の少ない自然の豊かな場所に出かけるなど、利用者の望む外出を実現している。いつまでも活動的な生活ができるよう職員が支援に取り組む、温かな環境で寄り添い支えながらの生活が継続できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念、グループホーム理念を施設の見やすい場所に掲示し、入居者様の支援のありかたとして理念に基づいて実践できるように共有している。ユニット会議の資料に理念をのせ、会議の時に読み合わせを行うことで共有を図っている。	理念は事業所のパンフレットに記載し、玄関とフロアの壁にも掲示している。職員は会議の際に確認し共有しながら理念を介護の基本と心得て支援に活かしている。携帯する名札裏にも理念が書かれており日々確認できるようになっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和元年度は毎月、地域のボランティアの方々によるレクリエーションが多数開催され、交流が図れている。その他、施設行事や町内会行事にお互いに参加しあうことも継続できている。町内会のごみ拾いや資源回収にも毎回参加している。町内会長様が先頭に立って施設のことを気にかけてくださっている。日常的に近所へ散歩に出掛けた時にも声をかけていただいたり、買い物へ出掛けた時には店員の方が入居者様に対して配慮して下さっているのが伝わってくる。認知症カフェにも地域の方と入居者様が関われる場面があったが、令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のために活動が行えていない。	前年までは利用者も職員と一緒に町内の清掃や資源回収、夏祭りなどの行事に参加しており、町内のボランティアや有志とひだまりカフェこまばを利用し交流をもっていた。今年度は感染症予防対策として外部との付き合いを自粛せざるを得ない状況下であるが、廃品回収の協力で地域との付き合いを継続しているほか、近隣からの介護相談等で関わっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	令和元年度はRun伴に参加し、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりをしていくための活動に参加し、大学や専門学校の実習生を積極的に受け入れ、認知症について伝えている。認知症カフェをオープンしたことで、近隣の住民の方々にものりこハウスは認知症の方が住んでいる施設という認知度も上がってきており、地域包括支援センターと協力しあい、近隣の認知症の症状のある方をカフェにお誘いするなどの連携した活動を行ってきた。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動が行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和元年度は2か月に1回、恵庭市介護福祉課職員、地域包括支援センター職員、春と秋には消防署職員、町内会長、民生委員、利用者様、ご家族様の参加により施設の活動運営状況、問題点や課題等について報告し、内容についてご指導やご意見をいただいている。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業所のみで開催となっているため事業所職員のみで開催している。開催について議題として取り上げてほしいことはないかをご家族様にご意見を求め、議事録を関係者に配布している。	今年度の運営推進会議は外部からの訪問を自粛しており事業所の職員がメンバーとして開催している。議題として事業所の報告のほか、研修報告、避難訓練、外部評価、感染症の情報、身体拘束等の適正化のための委員会の報告などを話し合い、議事録は家族に郵送し、市へは持参して説明している。会議案内に運営推進会議で取り上げてほしい事項や意見の募集について明示している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居に関する相談や、事業所が実施しようとするこの相談等を密に行っている。令和2年度では、新型コロナウイルスに関しての相談や行政の考え方を確認するなどで協力、支援をいただいている。	介護福祉課と感染症関連の連絡や地域を超えた入居相談、家族との対応などを相談している。市の社会福祉協議会から屋内運動会のゲームを貸し出ししてもらするなど良好な関係を築いている。	

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成30年に身体拘束廃止に関する指針を整備し、施設としての方針を統一した。介護保険上、身体拘束等の適正化を図るための活動を実施することが義務付けられたが、それ以上に開催し、身体拘束禁止行為11項目を基に、勉強会や事例検討などを実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所では事例検討会やスピーチロックを含めた不適切ケア研修にて、身体拘束による心理的な弊害等を正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。定期的な管理者ミーティングの委員会や従業員に対する周知及び研修で話し合われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	開催されている時には参加している虐待の防止に関する研修会に令和元年度までは定期的に参加し理解を深められるようにしている。また、研修内容に関しては会議で報告し職員間で共有している。、身体拘束と同様に日常的に不適切なケアが行われていないか、不適切なケアとはどういうことかについて話し合い意識できるように努め、会議にて事例検討等を行い、防止に努めている。		

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	令和元年度に成年後見制度や人権擁護に関する研修会が開催されていたものに関して、参加できるようにし、理解を深められるようにした。入居される段階で、今後必要と考えられるかたへ成年後見制度の利用を促すようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は入居前の段階から当施設の理念、概要や費用について説明し、その後も確認したいことはいつでも連絡を受け付けていることをお伝えしている。契約締結時にはより詳しく丁寧に時間をかけて説明理解を得られるようにしている。これまででは重度化について不安であることが多く、時折、ご家族様の意向を確認している。令和2年度では新型コロナウイルスに関する説明や同意を理解が得られるように説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居されている方とのコミュニケーションの中で発する言葉や行動を職員で話し合い、ご本人の要望として反映させられるように努めている。また、ご家族様との電話や施設来設時には暮らしの状況等をお伝えするなど管理者及び職員が率先してお話しすることや、ご家族様から得られた情報は施設の質の向上に繋がることをお伝えし、遠慮せずに話して頂けるような雰囲気としている。また、伝えづらい方もいらっしゃるかと考え、ご意見カードをエレベーター内に設置した。頂いたご意見等は『介護記録』『支援経過記録』『相談・連絡・依頼・要望・苦情ファイル』に記録し、市役所職員や地域包括支援センター等に相談や連絡を行うことや対応ができるように努めている。	感染症予防策として、昨年は一時アクリル板で仕切った面会が可能であったが、現在はさらなる予防策が必要な状況になっており家族が訪問しての面会は自粛中である。利用者が家族と会えない事で寂しい思いをしないよう、電話で会話ができるよう支援をしている。事業所内や外出先での写真を掲載した「のりこハウス便り」や担当者が暮らしぶりを個別のお便りにして伝えている。家族からの意見は電話連絡の際に聞くようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議において、職員が意見を伝えやすい雰囲気をつくり、どんな小さな意見であっても貴重な意見として聞き出して頂けている。その他、ユニット会議や面談時に管理者が職員からの意見を管理者ミーティングで代表に伝えるなどにより、反映するための取組みを行っている。	管理者は個人面談を毎年行い、職員の個人目標を達成するための助言や資格取得のための相談に乗っている。日々の業務においても気になる様子がみられた場合や、困りごとの相談がないか話し合っている。職員は事業所の業務を分担しており、意見は運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の状況や勤務状況を把握して頂き、より良い環境となるように配慮して頂いている。職員の考えを引き出し、挑戦できる環境を整えて頂いている。毎年給与のベースアップも継続して行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表が職場の不足している知識や経験を会議にて職員に対してアドバイスして頂けている。また、研修の機会も多く確保していただけており、代表の思いである、質の高いケアができるような環境とチャンスを与えて頂けている。		

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>代表の繋がりにから多くの関係者と交流する機会が与えられている。医療、介護の隔たりなく交流の機会が設けられている。令和元年度では忘年会の最初に講師をお招きして学びの場も提供して下さった。そのような場を与えてくださり、交流と質の向上を図れるよう配慮して下さっている。管理者は恵庭市内のグループホームの事業所とのネットワークがあり、協働による研修会や勉強会、レクリエーションなどが継続して行われ、交流が深められている。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために活動は制限されている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時にご家族様、ケアマネジャーから状況を伺い、ご本人様との面会により現在の状態や生活状況を確認している。今後、どのような暮らしを望んでいるか、困っていることはないか等を把握し、望んでいる暮らしが実現できるように提案させて頂き、入居当初に気になるようなことがあったり、物理的に生活のしづらさを感じている様子があった場合は可能な限り即対応するように心がけているなど、安心して暮らせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設に相談に来られた段階からこれまでの生活歴を確認している。また、施設の見学により実際に見て頂き雰囲気を感じて頂き、ご本人様及びご家族様の要望に沿ってできることを説明し、ご本人様がどのような形で最期を迎えたいのか、ご家族様はどのように考えているかをお聞きし、住処としてどのような施設が適切かを一緒に考え、入居申し込みへと繋げている。実際に入居する段階では、事前に確認した生活歴と合わせて、ご自宅ではどのような環境だったのかを確認をさせて頂くなど可能な限り、これまでの生活に近づけられるように対応し努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご自宅に伺い、生活環境や生活状況を確認している。また、他施設からの入居の場合は利用中の施設へ面会に伺い、施設職員からも状況の確認を行っている。その状況と意向をふまえた形で入居後すぐに対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のできないことに目を向けるのではなく、入居されている方が主体となれるように、できることはご本人様が行うことで、お互いが助け合って暮らしていると思えるような環境をつくり、関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の介護に関する不安というのは施設に入居しても解消されるわけではないとの認識もっている。お電話や毎月の状況をお手紙でお伝えすることで、ご本人の状況や考えていること、行動や症状などについて、ご家族様に相談したり、ご意見を聞けるように努めている。医療機関へ受診する際にはご家族様に付き添って頂き、職員と共にご本人様を支えている、ご家族様のご協力なしにはご本人の暮らしを支えられないとお伝えし、ともに支えていると感じて頂けるように支援にあたっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の親戚がボランティアで来設してくださったり、ご家族様、親戚、友人が面会や外出、外泊に出掛けて下さっている。日常の買い物などは入居者様のご自宅の近くへ出掛けるなども行っていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために面会や外出が思うように行えなくなり、お手紙やZOOMの支援を行っている。	前年度までは友人の訪問もあり、馴染みの場への外出もできたが、今年度は手紙と電話の支援で以前の関係が途切れないようにしている。現在は利用者のなじみの品は家族や職員が買い物代行をしており、家族とのWeb面会の支援もしている。	

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の人間関係や、ADLや活動意欲が低下している方と活動が行える方を側の座席にすることで活動意欲の向上を図り遊び事や食事を楽しめるような企画をしている。身体状況の良い方が目配りしてくださるなどの関係性も生まれ、支えあいが行えている。また、外出行事等でも関わりが深められるように配慮している。		

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お看取りによる退去されたご家族様に対しても、退去後のご家族様の心身状況を配慮する形で連絡を取り合い、相談やお話をする等の支援を行い、退去後もいつでも連絡しやすいように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや希望、望む暮らしの形を把握できるように常に発言や表情、行動などから感じ取れるように取り組み、入居時に知り得た意向にプラスした支援を行っている。ご家族様のご協力をいただきながら、可能な限りご本人の意向に沿った支援が可能となるようにしている。	日々の生活で職員は利用者の希望が何があるかを汲み取っており、会話の中で以前は毎朝パン食だった事がわかり、朝食を米飯からパンに変更した実例もある。言葉にできない想いは日々の行動や表情、仕草から把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用していた事業所からの情報や、ご家族様からの情報、ご本人の意向や会話や行動から得た情報を収集し把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中で関わりを持ちながら、また、モニタリングにより現状を把握し、楽しいと思えていること、嫌がること、嬉しいこと、行えていること、できそうなことなど、日々の記録や話し合いのなかで情報を共有しながら有する能力が発揮できるように努めている。ご自分でやりたいことが表現できる方、意思を伝達できない方それぞれの方にあつたご本人の暮らしが続けられるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様とお話ししながらやりたいことや希望を確認したり、会話が困難な方に対しては、関わりの中で何を望んでいるかを把握できるように努め、また、ご家族様からの意向や要望、医療者からの医療的ケアに関するアドバイスをいただき、支援について意見交換や介護記録の実績によりあがってきた課題等を各担当者がモニタリングを行い、カンファレンスを実施し介護計画を作成している。	利用者の担当職員を中心に毎日記録している詳細な「介護記録表」を確認し、モニタリングしたものをもとに計画作成者が3か月ごとに介護計画を作成している。利用者が話した内容や家族の希望を取り入れた計画になっており、体調変化や入院時は現状に即したもので見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化、ケアの実施により入居者様の反応、行動、発言等介護計画に沿って職員間で引き継ぎや話し合いができており、介護記録に記載ができてきている。その結果、次の計画に向けてモニタリングを行いやすくなっている。介護計画の作成に活かされる記録となってきた。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設がご自分の家のように、ご自分の意思で暮らせるようにその都度発生するニーズに可能な限り対応できるよう臨機応変に対応できるように取り組んでいる。		

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	令和元年度は入居者様と一緒に散歩しながら近所のお店に買い物に行ったり、ご家族様も参加して一緒に楽しめる行事を計画し実施している。町内の活動やイベントにも積極的に参加することで地域の方からも施設の認識して下さっており、配慮して接して下さっている。また、認知症カフェや多数のボランティアの方が活動的に支援して下さいましたが、令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、散歩や近隣へのドライブ等で地域資源を活用した取り組みが行えていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に当たっては訪問診療を受けている。また、訪問看護師による健康チェックを毎週受け、訪問看護師から医師へ情報が伝達され、早期対応が行えており、ご本人やご家族の意向を確認しながらの対応が行われている。状況に応じて、医師からご本人やご家族に対して説明を依頼し、適宜意向を確認しながら支援を行っている。	利用者ごと2週間に一度の訪問診療を受け、訪問看護師は毎週利用者の体調を管理をしている。歯科も訪問しており口腔ケアの指導や義歯の不具合を調整している。受診結果は「緩和ケア受診記録」と「外部医療機関受診記録」に記入し、病状の変化や投薬変更等があれば家族へ連絡し詳細に伝えている。	

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師による週1回の健康チェック時に、入居者様一人一人の身体、精神状態で気になる事柄を介護スタッフからお伝えることにより異常時の早期発見、早期診断に結びついている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に面会を行い、ご本人の様子や現在の状況を確認できるようにしている。医療機関の相談員やリハビリ専門職と退院時のADL状態などの話し合いを行い、早期退院にむけた調整を行っている。医療機関や介護事業所との連携による研修会などに参加することで顔の見える関係づくりを当施設もやっている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化になった場合の意向を確認している。また、体調に変化がみられる段階ごとに意向を確認し、重度化し終末期を迎える段階で主治医より詳しく医学的な説明を行い、施設ではどこまでの対応が可能なのか、ご本人及びご家族の意向を確認しながら支援に取り組んでいる。意向は、変化してかまわないこともご家族へお伝えしている。	契約時に「医療連携・重度化(看取り)に関する指針」を説明し、終末期支援では医師、事業所、家族と相談し、看取りの説明と同意書を取り交わしている。事業所では医療関係者等と連携を図りながらターミナルケアに尽力しており、本人や家族の思いに寄り添い、穏かに過ごせるよう支援をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	令和元年度は、フィジカルアセスメントについての研修会に参加している。また、急変時にどう対応したら良いのかのマニュアルが手に取りやすい所に置いてあるのでもいつでも確認することができる。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日中想定と夜間想定で避難訓練を実施している。日中想定時には地震からの火災を想定しており、地震が発生した際の行動が身につくように実施している。スタッフ全員が通報訓練、誘導、搬送訓練を経験できるように配置している。いづれも、消防署職員立会いの下、地域の方々のご協力を得ながら実践している。自然災害の避難確保計画を作成中である。災害時のマニュアルが手に取りやすい位置に置いてあるためいつでも確認できる。	8月に消防計画を以前より現状に即したものと変更し提出している。10月に地震による火災が発生した想定で、2月には夜間の火災想定での消火訓練を行った。2階から階下への避難にチューブベッドを考案し作成している。持ち出し一覧表に不足している物品は現在発注しているところ、感染症予防対策の物品も加えることを検討している。	火災と地震以外に想定される災害のマニュアル整備と、感染症予防対策を整えた訓練の実施を地域の方々と一緒に行うなど、より実践的な取り組みに期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いを尊重し、相手を敬う気持ちをもった言葉かけを行い対応している。ユニット会議においても対応について常に話し合いを行い、対応の統一を図っている。	ユニット会議の中で不適切ケアに関する研修を行い、言葉かけについての勉強を行っている。気になる場面があれば管理者が都度指導し、利用者の人格の尊重につなげている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身でどのように過ごすかを決められる方はご本人の思うままに暮らせるように配慮し、希望がある場合は表現できるように、また、表現しない場合でも職員が気付いたことがあれば、表現できるような言葉かけを心掛けている。何かを決めなければならない時には自己決定ができるように、入居者様一人一人に合った自己決定の方法に配慮し働きかけている。言葉で意思表示ができない方の場合は、表情や行動から読み取るようにしている。			

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同で生活する中でも個々の暮らしを大切にすることは我々の方針の中でも掲げている。その人らしい一日が送れるようにその日の状態に合わせた対応を行っている。また、それが実現できるように改善や体制づくりを実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフがその日の洋服を選んでいる場合は、ご本人らしい服装となるように配慮している。ご本人で決められる方に対しては、お褒めのお言葉をかけている。必要に応じたお手伝いを行うことによりその人なりの自己決定を援助している。散髪に関しては、ご本人の希望を確認しご家族様に連絡し訪問理美容の援助をしている。いつも通っていた美容院へご家族様の支援により行っている方もいたが新型コロナウイルスの影響で現在は通えていない。		

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居されている方の嗜好品を把握して提供し食べる楽しみや意欲を引き出せるようにしている。調理を個々の能力に応じスタッフと一緒にいたり、盛り付けができる方にはして頂いている。食事は職員と入居者が隣に座って楽しく召しあがり、後片付けは入居者が中心となって行って頂いている。月に数回、出前やホットプレートを利用し焼肉を行うなどで楽しみながら食事ができるようにし、準備には入居者の方もやっている。	当日の食材の状況に応じ、利用者と相談しながら一緒に献立を決めている。野菜の下ごしらえや盛り付けなど、利用者と一緒に調理している。入居前の食生活を継続できるように個別に一部メニューを変更するなどの事例もあり、利用者へ寄り添った支援をしている。ラーメン等の出前、バーベキューや流しソーメン等のイベントでの楽しみもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好品や疾病の状態を考慮し食材や食形態を考えて提供している。食事量の確保が難しい方、嗜好品しか召しあがらない方に関しては提供する方法を検討し工夫をしている。水分に関しても嗜好品を考慮し提供することで確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の状態が清潔に維持できるように、毎食後入居者様の個々の能力に応じ見守りや介助の支援を行っている。また、毎月歯科医師より口腔機能維持管理にかかわる指導を頂いてなかで相談を行い、指導を頂き維持、向上に努めている。歯科医師の指導の下、早期発見、早期治療が行えている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレで行うことを目指し支援を行っている。排泄パターンを情報収集し根気よく対応することで、尿取りパッドは使用しているが通常のパンツを着用することが継続できている。現在はハビリアパンツ使用者が日中は1名となっている。失敗したときなども、周囲にわからないよう配慮し自尊心が傷つかなないように対応している。	介護記録に排泄状況の記録のほか、排便コントロール実施チェック表にも個別に記録している。夜間も可能な限りトイレを利用している。時間や利用者様の様子を見て適切なタイミングで声かけ誘導を行うことで失敗を減らし、パッドのみの使用にするなど、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し各入居者様の排便状況を把握している。毎朝乳製品を摂取、もち麦ご飯の提供により食物繊維を多く召し上がっていただいている。個々に合わせて身体を動かすようにしたり、水分量が確保できるように提供している。医師と連携し下剤の調節を実施して便秘とならないように対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は基本的には設定はしているが、ご本人の希望があれば、希望に沿って入浴の対応を行っている。お一人で入りたい方などの対応は安全を考慮しながら支援を行っている。また、入浴中のコミュニケーションを大切にしており、『気持ちよかった』と言ってくださることを目標としている。	毎日入浴が可能で、一週2、3回の入浴支援を行っている。全員が湯舟に浸かっており、入浴剤などを使用している利用者もいる。同性介助にも対応しているほか、職員との会話が利用者の楽しみとなっており、利用者の気分によって職員を代えることで入浴を安心して楽しんでもらえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を考え、日中の活動や食事状況、心理面等により必要な休息や活動の援助を行い、快適な環境をつくるようにしている。寝具などの気持ちよさと、皆さんの心理面や体調面を配慮し、夜間に安眠ができるように支援を行っている。		

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報により目的や副作用、用法、用量などについて確認している。服用前には薬剤師より説明や注意点を教えて頂いているので、どのような症状について観察するべきかが理解できている。また、その状況により看護師や医師へ情報提供を行っている。服薬時の間違いを防止するために調剤薬局の薬剤師の方に相談、協力をいただくなどを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	グループホームの理念でもある楽しみもある暮らしを実感できるように、各入居者様の生活歴から、興味のあった事や習慣にしていたこと、得意なこと、嗜好品などを把握し、その情報をもとに各入居者様の能力に応じて家事や運動、趣味活動を支援している。食事の楽しみが大きい中で外食が行えない中、楽しく食事ができるような活動や食事の出前を注文するなど、気分転換が図れるように支援している。		

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	令和元年度は近隣へ毎日散歩へ出掛けている。買い物に出掛けたいという希望をもつ入居者がおり、買い物を入居者様と一緒にできる体制づくりを行い、お金の支払いも入居者が行うなど買い物ができる楽しみを感じていただけるようにしている。その際には、入居者が通っていたスーパーへ出掛けるようにしている。外出行事では、入居者の行きたい場所などを聞き取ったり、季節感を感じられることを取り入れている。令和2年度は買い物にはでかけられていないが、感染予防を行い、短い時間、人が少ない時間を見計らってドライブ等に出掛けている。	天気の良い日は近隣へ散歩に出かけている。感染症の流行前はビール工場見学や郷土資料館などへ外出している。今年度は苦小牧市の金太郎池公園や岩見沢方面のバラ園など、自然の多い場所へ外出している。ドライブで自宅巡りを行うなど、馴染みの場所とのつながりも意識した、利用者に寄り添った外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事の際に、お金を使用できる場所へ出掛ける時にはご家族へお金を持参させて頂けるように了解を得て使えるようにしている。入居者様の中でおこずかいを持っている方は、日常の必要物品の購入のため近隣のドラッグストアへ買い物支援を行っている。管理としてはご家族様の協力の下実施している。令和2年度は新型コロナウイルスの影響により買い物支援が行えていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から届いたお便りを一緒に読んだり、そのお返事をお手伝いしながら書いてやり取りを行っている。また、年賀状を可能な限りご自分で記入していただいてご家族様へ出している。ご家族様への依頼など、入居者からの希望があった場合にはご本人から直接お電話でお話できるように支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は入居者様と一緒に毎日掃除を行い清潔にし、季節感が感じられる飾りつけを入居者と一緒に、不快感を感じないように配慮している。室温は温湿度計による管理と、肌で感じる室温により寒すぎず、暑すぎない室内環境になるように換気と空調機を併用している。外からの陽ざしと室内の明かりが眩しすぎず暗すぎないように配慮している。浴室やトイレは清潔感が感じられ、居心地よく落ち着ける空間づくりを心掛けている。	リビングを中心とした共用空間は窓が大きく、陽ざしが差し込み明るい。手作りの雛飾りなど、季節に応じた温かみのある装飾が施されており、マッサージ機や卓球台も設置している。意識的に観葉植物を多く配置することで、共用部の中にも落ち着ける空間が多く作られており、利用者は気分によって好きな場所で居心地よく過ごすことのできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に、人の気配を感じながらお一人に慣れる又は気の合う入居者同士でくつろげたり、互いに声をかけあって作業に取り組めるように、椅子やテーブル、ベンチなどを配置している。卓球のスペースで多数で賑やかにできるスペースも確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の好みや生活習慣などを配慮し、ご家族とも相談しながら各々の個性で居室の空間づくりを行っている。ご家族の写真や飾り、普段からご使用される者はご本人が自ら使用しやすいように配置し、自由に使用できるようにいただけるようにしている。自宅で使い慣れたものやご本人様の好みの物、大切な者などを配置していただけるように入居時及び必要時にお伝えしている。	カーテン、クローゼット、ベッドが備え付けられている。ベッドは利用者希望のものを持ち込むこともできる。机と椅子やタンスなどの使い慣れた家具やテレビ、塗り絵等の趣味に関する物を持ち込んでいる利用者もいる。部屋の壁には家族写真や利用者の製作物が飾られていたり、花など自分の好みの物を置き、居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの動線や行動習慣などを考慮し、表示でわかりやすくしたり、物の起き方、配置を考慮して設定し、可能な限り安全で自由に過ごせるように取り組んでいる。		

目標達成計画

事業所名 グループホームのりこハウス

作成日：令和 3年 3月 23日

市町村受理日：令和 3年 3月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災と地震以外に想定される災害のマニュアル整備と、感染症予防対策を整えた訓練の実施を地域の方々と一緒にするなど、より実践的な取組に期待したい。	火災や地震災害以外の自然災害等が発生した場合を想定したマニュアルを作成し、地域の方々のご協力をいただきながら訓練に取り組む。	火災、地震、水害、雪害、風害等に考えられる対応マニュアル等を作成し、災害発生時にも対応できる仕組みを構築する。新型コロナウイルス感染拡大防止対策により地域の方々との連携が図られていない状況があるが、地域の方々のご協力をいただけるよう連携を進めていく。	2年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。